

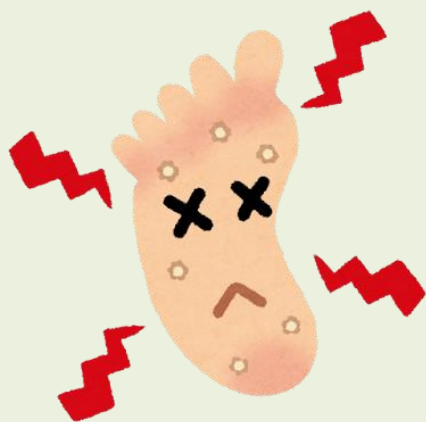
ウィルス性いぼ

今日はウィルス性いぼについてお話しします。

いぼとは手や足の皮膚にヒトパピローマウイルスが感染し小さな隆起を形成し、時には痛みなどを伴う病気です。

主にヒトパピローマウイルス2a/27/57 型の感染で生じ、通常手足に多くみられ、豌豆大までの結節を生じ、徐々に増大し融合してきます。小児を中心に全世界で幅広くみられます。

主としてヒトからヒトへの直接的接触感染であり、銭湯、温泉施設、プール、ジムなど公共施設で ヒトパピローマウイルスに感染すると言われています。また、鮮魚や精肉の処理に従事する人では手指の浸軟がヒトパピローマウイルスの侵入を助長させ、手のいぼの発症率が高いことが知られています。健康な皮膚には感染しませんが、外傷など損傷を受けた微小な部位から侵入し、表皮の最下層の基底細胞の中の幹細胞に特異的に感染し、細胞内から核へと取り込まれ 潜伏感染状態となります。



いぼを消失させるために何らかの治療を行うか、免疫の作用により自然治癒するのを待つという二つの選択肢がありますが、自然治癒には年単位の時間を要し、その間にいぼが増加、拡大することが多いです。

一般的な治療法としては、

1. 冷凍療法；病変を特殊な冷却スプレーにより冷却し、冷凍することにより、いぼを凍結壊死に至らせる治療法です。日本では第一選択です。冷却時や処置の後に痛みを伴ったり、稀に、冷却後の水ぶくれや血豆が発生する場合があります。7-10日間ごとに処置が必要で、3ヶ月前後の期間を要することが一般的ですが、6ヶ月以上の治療期間を要することもあります。当院でも行っておりますが、当院の冷却スプレーは皮膚科専門外来で使用している液体窒素による治療とは種類が異なります。

冷凍療法に伴う合併症としては、処置中の冷却による痛みや処置後の水ぶくれ、血まめの形成、処置後の色素沈着などがあります。通常色素沈着は時間とともに軽快することが多いですが、特に顔面に関しては、治療前に色素沈着が残る可能性についてのご理解いただくことが必要です。

また治療時の冷たさや痛みを考慮し、基本的には5歳以下のお子様には冷凍凝固はお勧めしておりません。イギリスのガイドラインでも younger childrenにはお勧めしないとされています。

2. サリチル酸製剤（Bazuka等の市販薬）；サリチル酸外用の作用機序としては角層の剝離に加え、いぼに対する免疫賦活化作用もであるとされています。イギリスのガイドラインでも高い推奨度となっています。

イギリスではBazukaという名前の薬が薬局で買えます。外用するとがっつき固まるので、付属のやすりで削っていきます。これを繰り返し、いぼが消え皮膚がつるつるになるまで毎日繰り返します。

健康な部分に外用すると皮膚を痛めるため、患部のみに塗ることが大切です。

実際やってみるとこちらも結構効果があるなという印象です。冷凍凝固とサリチル酸の比較では、足底のいぼでは結果に有意差はないという報告もあります。

特にお子様にとっては、冷凍凝固のような疼痛がなく、自宅でも治療していただける点が利点だと思います。



その他、活性型ビタミンD3軟膏外用も有効なことがあり、治療選択肢の1つとして挙げられます。塗布法としては1日1回適量を患部に塗布後、閉鎖密封療法を行うのが良いとされています。ただ、日本でもまだ保険適用はありません。

炭酸ガスレーザー、パルスダイレーザー、Nd:YAGレーザーなどで焼灼するという方法もあります。治療回数が少なくて済みますが、かなりの疼痛を伴います。イギリスではなかなかやっている医療機関がないかもしれません。

ちなみに日本ではウイルス性いぼにヨクイニン内服療法を行うこともありますが、イギリスではなかなか手に入りにくいのが現状です。

ご参考になれば幸いです。

参考：皮膚科学会 尋常性疣贅診療ガイドライン 2019

ジャパングリーンメディカルセンター
於保 麻紀（おぼ まき）

日本クラブ・医療サービス委員会からのお知らせ：
今後のより良い紙面づくりのため、皆様からのご感想やご関心のある医療テーマがありましたら事務局までお寄せ下さい。 jimukyoku@nipponclub.co.uk